

嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

＜令和3年度事業進捗・効果検証シート＞

嬉野市総合戦略推進委員会

令和5年1月24日開催

基本目標① 嬉野市に住みたい・行きたい”ひと”の流れをつくる

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
交流人口【観光客数】	2,395千人	H30 (暦年)	1,968千人	1,123千人	R3観光客動態調査
人口の社会減(5ヵ年累計)	500人以下	H26～30	758人	78人	住民異動月計表(リストナビ)

(1) 新幹線を活かしたまちづくりの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6)KPI	年度	値	値	把握方法
新幹線駅前交流施設 来訪者数	400千人	H30	—	—	※駅前交流施設未開業
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・「嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会」の提言を踏まえた駅周辺施設整備および官民連携による賑わいづくり推進	嬉野温泉駅の開業に併せ、駅周辺整備についても順調に進捗している。	A	道の駅うれしの まるくの周知を図るとともに、断続的な賑わいづくりを推進していく。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・新幹線開業に向けたプロモーションおよび開業前後の関連イベント開催	駅舎見学会や開業1年前イベントを開催し、嬉野温泉駅開業機運の醸成を図った。	A	福岡県、長崎県へのPRやJR、鉄道・運輸機構及び佐賀県と連携し、試乗会、出発式、開業記念式典及びイベントを開催する。		
・県、沿線市や近隣自治体と連携した広域的誘客促進の取組み	沿線5市と連携して、周遊を促す取り組みを行う。	A	沿線5市で人気アニメとコラボレーションし、5市を巡るスタンプラリーを実施する。		
・新たな交通結節点となる新幹線駅から温泉街や市内外各地を結ぶ次世代モビリティを含む二次交通の充実	嬉野市地域公共交通計画を策定し、駅からの2次交通についても検討する。	A	新幹線開業後に、駅から温泉街への2次交通等について、観光客や利用者に対して需要調査を行う。		
・国や他の道の駅等との連携による「道の駅」の登録・開設を目指した取組み	道の駅うれしの まるくの登録ができた。	A	道の駅の開設に向け整備を行っていくとともに、開業後は断続的な賑わいづくりを推進していく。		
・新たな交通拠点の誕生を契機としたAI、IoT、5G、自動運転などの未来技術を活用した取組み	嬉野温泉駅の開業にあわせてVR、自動運転などの未来技術を活用した取組みを開始できるよう協議・検討を行った。	A	デジタルモール嬉野、嬉野市公式LINEを開設し、嬉野の魅力を全国に発信し誘客を図る。自動運転についても研究を重ねるとともにまずは、車両の試乗会を開催する。		

(2) 観光まちづくりの推進・国際交流活動の推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
宿泊観光客数(全体)	727千人	H30 (暦年)	588千人	292千人	R3観光客動態調査
外国人観光客数(宿泊)	232千人	H30 (暦年)	120千人	179人	R3観光客動態調査
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・「温泉」、「食」、「自然」等を活用した新たな観光コンテンツや魅力の創出	西九州新幹線嬉野温泉駅開業を見据え、観光協会、県観光連盟や近隣市町との連携とともに、地域づくりに係る人材育成を行い、既存観光資源の磨き上げや着地型観光コンテンツ(体験コンテンツ等)の創出を図った。	B	西九州新幹線嬉野温泉駅開業を見据え、観光協会、県観光連盟や近隣市町との連携はもちろんであるが、引き続き、地域づくりに係る人材育成を行うとともに、既存観光資源の磨き上げや着地型観光コンテンツ(体験コンテンツ等)の創出を目指す。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・関係団体等との連携による回遊性のある観光まちづくりの推進	嬉野橋及びシーボルトの湯のライトアップを行い、あったかまつり等、夜間のイベント時を中心に観光客の周遊を促すことができた。	B	コロナ感染拡大防止策に工夫を講じながら、市内全体での回遊ができるよう、商店街や案内組合、その他団体や店舗と連携し、周遊環境を創出する。		
・各種地域資源を活用した関係団体等との連携による国内外に向けた観光プロモーション	コロナの影響で、大規模な商談会やイベントの中止が相次ぎ、現地に出向いてのPRができなかったため、オンライン等を活用し、絶えずPRを続け、ウィズコロナ・アフターコロナの誘客に取り組んだ。	B	コロナの沈静化に伴い、大規模な商談会やイベントの再開を見込まれており、現地に出向いてのPRを行い、オンライン等を活用し、絶えずPRを続け、アフターコロナの誘客を狙う。		
・「嬉野版DMO」によるブランドづくり・マーケティングなど一体的な観光地域づくりの推進	候補法人として、国庫事業等を活用し、観光コンテンツの創出や商品の開発を実施してきた。コロナの影響もあり、十分な誘客ができない部分もあったが、正式に登録DMOとなった。	B	DMOの本登録となったため、市内での観光消費額を増やすべく、人材育成事業を行い、その上で、地域ブランドづくりやマーケティングに取り組んでいく。		
・広域的な観光ルート形成など広域連携による多様な観光振興事業の取組み	肥前路南西部広域観光協議会では、嬉野温泉駅を起点とし、2次交通を考慮した観光ルートづくり、3市町連携会議では、西九州新幹線を活用した観光PRを図ったがコロナ禍もあり、実施できなかった。	B	肥前路南西部広域観光協議会では、嬉野温泉駅を起点とし、2次交通を考慮した観光ルートの創出を目指す。3市町連携会議では、西九州新幹線を活用した観光PRに取り組む。		
・観光ポータルサイト等による観光情報の発信強化およびVR等の未来技術を活用した観光情報発信の取組み	西九州新幹線嬉野温泉駅開業に向けて特設ページを作成するとともに、引き続き課題の抽出と改善を行い、JR利用での観光客誘致のための情報発信に努める。また、新幹線・まちづくり課とも連携し、駅構内及び周辺の情報掲載の準備を行う。	B	西九州新幹線嬉野温泉駅開業に合わせて特設ページを作成・充実させるとともに、引き続き課題の抽出と改善を行い、JR利用での観光客誘致のための情報発信を行う。また、新幹線・まちづくり課とも連携し、駅構内及び周辺の情報掲載を行う。		
・多言語対応、UD化など観光おもてなし体制・環境整備の促進	国庫事業で作成した施設の英語表記の具現化(観光協会HP等)を行った。令和3年度国際交流員(CIR)が着任し、連携して、多言語表記の改善に努めた。キャッシュレス決済普及については継続して行う。	B	令和3年度着任した国際交流員(CIR)と連携し、随時、多言語表記の改善を行う。キャッシュレス決済普及については継続して行う。		

具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)			
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)	
・大学や関係機関等と連携した観光客受入体制の充実および人材育成	国立大学法人で唯一の観光学部を有する和歌山大学観光学部と「観光に関する連携協定」を締結し、観光を担う人材の育成に努めた。	A	引き続き、和歌山大学観光学部との「観光に関する連携協定」に基づき、観光を担う人材の育成、新たな観光戦略の策定、地元教育機関に対する指導に努める。	
・モニタリングシステムを活用した源泉集中管理による温泉の保全	令和2年度末までに全17源泉中、13源泉にシステムを設置完了。残る4源泉への設置には至らなかったが、2源泉については設置に向けての準備等ができた。	B	未設置の4源泉(2所有者)の内、同意が得られた2源泉(1所有者)については、令和4年度中の設置を目指す。残る2源泉(1所有者)については、引き続き同意を取れるよう努力し、早急な設置を目指す。	
・温泉文化等を通じた国際交流の推進	嬉野市と同様に温泉を有する台北市(台湾)と友好交流協定を結び、毎年開催される「台北温泉祭」に参加し、台北市温泉発展協会職員等との交流を行い、併せて、ブース出展により観光PRを実施している。	B	令和3年度は、新型コロナウイルスの影響で直接の交流ができていないが、渡航できる状態になれば、現地に赴き、嬉野市がインバウンドで集客を目指す台湾との交流を引き続き継続する。	
・市内在住外国人等と市民との交流促進による多文化相互理解の推進	「カフェこくさいじん」を定期的開催し、市内に住む外国人への日本語教育、各種イベントへの参加等の交流を行った。また、令和3年度新たに国際交流員が着任し、交流事業の充実を図った。	A	令和3年度に着任した国際交流員と連携し、交流事業を充実させる。また、佐賀県国際課とも連携し、市内在住外国人にとっても住みやすい地域づくりを目指す。	

(3) 移住・定住したいまちの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
市・県が支援した移住者数 (転入奨励制度・移住支援制度・空き家バンク利用者等)	350人	H26～30	256人	261人	空き家バンク登録ファイル、 移住促進応援金支給台帳
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・ 県・関係機関等との連携による移住支援の取組み	お試し移住施設での滞在を検討されている方に、県のお試しリモートワーク補助金を勧めたり、共同でオンライン移住相談などをおこなっている。	B	予算不足やマンパワー不足で連携しきれていない県主催のオンラインやリアルでの移住イベントへ積極的に参加していきたい。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・ 大都市圏での移住相談会開催やポータルサイトの導入等による移住・定住情報発信の充実	コロナ禍ではあるが、大都市圏での移住フェアに参加する機会が増え、実際にお試し移住や移住する方もでてきた。	B	予算不足で、一部の移住相談会へしか参加できていない。また、同様の理由でポータルサイトも開設できていない。		
・ 「おためし移住制度」の導入など移住希望者への相談・支援体制の拡充	お試し移住施設を設置し、移住希望者を受け入れている。また、移住希望者とオンライン等での相談の場を設けることで嬉野市内での移住体験の際に要望に沿った関係人の紹介などをおこなっている。	A	移住希望者への案内について希望されない方もいる。移住の確率を上げるためにも、現地での案内を充実させたい。		
・ 転入奨励制度など移住促進のための優遇施策の拡充	移住促進応援金や移住支援金、さが暮らしスタート支援事業補助金など優遇政策を拡充している。	A	移住促進応援金など、市独自の政策について、より多くの移住者を獲得できるよう定期的な制度改正をおこなってきたい。		
・ 空き家利用促進のためのリノベーションなど助成制度の拡充	空き家バンク登録物件のリノベーション費用の補助をおこない、利用者も増加している。	A	空き家バンクの登録件数が伸び悩んでいるため、補助制度の拡充や制度周知に取り組んでいきたい。		
・ 市が運営する空き家バンクへの登録促進	年間約20軒のペースで登録があり、同数程度の物件が成約している。	A	空き家バンクの登録件数が伸び悩んでいるため、補助制度の拡充や制度周知に取り組んでいきたい。		
・ 景観の保全と景観づくりの推進および道路・公園・排水処理施設など生活環境等の整備促進	景観の保全と景観づくりの推進および生活排水処理施設など住環境の整備事業に取り組んだ。市営浄化槽整備は年間76基取り組んだ。公共下水道整備状況は97.96%となった。	A	今後も景観の保全と景観づくりの推進および生活排水処理施設など住環境の整備促進のために事業を継続していく予定。		

(4)文化の薫るまちづくりの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6)KPI	年度	値	値	把握方法
社会文化会館「リバティ」文化ホール利用件数	380件	H30	333件	303件	施設貸出利用実績
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・市内外から多くの来場者を呼べる魅力的な演奏会・舞台芸術等の開催・誘致	一流の演奏家や落語家などを招聘した魅力的な演奏会、寄席などを開催するとともにファミリー向けの子どもオペラ等を実施し、市内外から多くの入場者を呼ぶことができた。	A	今後、更に魅力的な演奏会、舞台芸術等を企画・実施していく。		※評価欄について A:計画的に事業実施・実施済 B:一部事業実施 C:事業検討・準備段階 D:未着手・事業休止・事業見直し必要
・文化芸術分野で活躍する佐賀・嬉野ゆかりの人物にスポットをあてたイベントおよびワークショップ等の開催	近年、開催できていない。	C	関係機関、団体等と連携・協力しながら開催を検討していく。		
・各種媒体を活用した市内外への文化芸術に関する情報発信の充実	広報物の全戸配布や班回覧、市内各所へのポスター掲示や広報物配置、市HP、フェイスブック等のSNS、ラジオ放送等の活用や以前の参加者へのDMも併用し、自主事業やリバティ開催イベント等の情報発信を積極的に行った。	A	今後も継続して、積極的に情報発信を行っていく。		
・塩田津・志田焼の里博物館・長崎街道・キリシタン史跡・鍋野和紙など文化遺産や歴史的資源の魅力向上およびそれらを活用した文化振興	文・ス課 取り組めていない。 教育総務課 塩田津町並み保存会の役員は、鍋野和紙を用いた名刺を作成し活用するなど普及に努めている。	B	文・ス課 今後、施設や史跡などの文化遺産や歴史的資源を所管する部署との連携を強化しながら魅力向上及び活用を検討していく。 教育総務課 予定:文化財の保存・保護に努めるとともに、観光資源として活用できるよう、関係機関との連携を図っていく。 課題:連携強化のための円滑な情報共有		
・市内各地区に受け継がれる面浮立・踊浮立・猿浮立・鉦浮立・獅子舞・大名行列など伝統芸能継承の支援	「嬉野市人づくり支援事業」の伝承芸能保存事業で各地に伝わる文化・芸能・祭り等を保存継承するための支援を行うとともに地域コミュニティや小学校と連携し地域に伝わる伝統芸能を小学生に披露・体験する事業を実施し、地域の伝統芸能に対する意識向上を図った。	A	今後も。継続して実施していく。		

(5)人と地域が元気になるスポーツの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
スポーツ施設利用件数	6,000件	H30	3,127件	4,306件	施設貸出利用実績
スポーツ合宿参加者数	10,000人	H30	9,426人	393人	合宿誘致補助実績
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・ 魅力あるスポーツイベントやスポーツキャンプ・合宿等の開催・誘致	サガン鳥栖うれしのdayを毎年実施し当日イベントに市民の方に参加いただくことで特別な体験を提供できた。 合宿については学生からプロ選手まで幅広い方に当市で合宿を実施してもらうことができた。	A	イベントについては実施しての課題を検証し改善しながら今後も継続して実施していく。 合宿についても実施後の感想・要望を聞き取り改善を重ねることで合宿地としての魅力を高め、リピーター及び新規先獲得を図る。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・ 各種媒体を活用した市内外へのスポーツに関する情報発信の充実	市報・市HPや班回覧を用い情報発信を行った。また、当市と連携協定を結ぶプロスポーツチームのSNSでも情報発信に協力をいただいた。(サガン鳥栖)	B	若年層への情報発信力が不足していると感じられるため、より多角的な発信手段を講じる必要がある。		
・ 体力づくりや健康増進を目的とした運動習慣確立等のスポーツライフ推進事業の実施	ミズノ株式会社との連携により市民が運動習慣を身に着けるきっかけづくりとなるような事業を実施した。(ウォーキング教室、トレーニング講座)	A	参加者から得られたイベントに関する感想・意見等を活かし、より効果的な開催方法を検討していくとともに事業の認知度を高め多くの市民に参加してもらうよう努める。		
・ スポーツツーリズム推進のための受入れ体制強化および魅力向上	体育協会、観光協会等の団体と随時情報交換を行い連携をとることで宿泊・観光まで含めたツーリズムとしての滞在をスムーズに提供できるよう努めた。	B	各団体・組織との連携をより深め、正確に現状把握をすることで、適切な提案を時間をかけることなく行うことができる態勢を作る。		
・ 官民連携によるスポーツコミッション組織の育成	「嬉野市スポーツ大会キャンプ誘致推進協議会」において官民連携した活動を行った。	A	協議会加盟団体間の連携を深め、スポーツコミッション機能の強化を図る。		
・ スポーツを市民みんなで支えるスポーツサポーター制度の創設・育成	市主催や関係イベントにおいて市民スポーツサポーターの方に運営協力いただいた。(サガン鳥栖うれしのday。プロ野球選手自主トレ等)	B	制度の認知度向上に努め、市民がスポーツに関わる機会の増加を図る。		

(6)ひとにやさしいまちづくりの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
外国人や障がい者にも対応できるユニバーサルデザイン(UD)ガイド登録者数	50人	H30	29人	17人	実績
「ボッチャ」競技参加人数(延人数)	1,400人	H30	420人	558人	ボッチャ競技参加人数報告
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・市全体での「バリアフリーなおもてなし」のための受入れ体制(ハード・ソフト)の拡充	視覚障がい者のために館内点字だけでなく音声館内案内(UD)を整備した。UDおもてなし向上講習会の開催。	A	継続して講習会を開催し、更なる拡充を図る。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・市全体での「暮らしのバリアフリー」やUDの意識向上および普及啓発の推進	UDおもてなし向上講習会の開催。観光従事者を対象とした「障がい者接遇講習会」、心のバリアフリーの推進を図るべく、市内小学校2校において4年生を対象とした「心のバリアフリー教室」を開催した。	A	バリアフリーやUDの意識向上や普及啓発のために今後も講習会等を継続して開催していく。		
・誰もが一緒に楽しめるユニバーサルスポーツ・レクの普及促進	UDおもてなしフェスティバルとして、うれしのレクボッチャ大会・ニューミックステニス大会を開催した。 ニューミックス19名・レクボッチャ107名参加	A	今後も、様々な人が一緒に楽しめるようイベントの効果を高めていく。		
・市内におけるバリア状況調査やバリア情報発信の充実	市内宿泊施設等のUD化を推進すべく7施設に対しアドバイスによる指導を行った。また電話・メール・パンフレット等を利用した問い合わせに対しパーソナルバリアフリー基準に基づいた情報提供を行った。問い合わせ121件 BFTCからの通信紙の年4回発行HPを更新。WEB更新回数(ブログ・HP/SNS)87回	A	今後も様々な旅行者への情報提供を実施していく。またHP等において、さらなる多言語化を推進していく。		
・建築物・道路・公園・公共交通などまちづくり全体にかかるUD化の促進	市内・県内の、様々な観光施設などを中心に20ヶ所程の施設のUD化無料相談・バリア調査を実施した。	A	今後も公共的施設のUD化無料相談およびバリア調査を実施していく。		
・連携協定校である佐賀女子短期大学等との連携強化によるUDに関する環境整備	西九州大学の学生および先生に「うれしのレクボッチャ大会」の運営協力(競技説明・審判)を仰ぐなどの連携を図った。	A	西九州大学連携の他にも市内高校のボランティア部の研修等で連携強化を図っていく予定。		
・「バリアフリー観光」のための佐賀嬉野バリアフリーツアーセンターの活動支援	ひとにやさしいまちづくり事業として、UDおもてなし体制整備委託料、バリアフリーツアーセンター補助金として支援。	A	今後も佐賀嬉野バリアフリーツアーセンターの活動に対して支援をしていく。		

(7)ふるさと教育の推進・関わりたいまちの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
「本市に(将来は)住みたい・戻ってきたい・貢献したい」と回答する市内在住高校生の割合	70.0%以上	R1	62.1%	—	※アンケート未実施 (5年ごと)
ふるさと応援寄附金(ふるさと納税)の寄附者数	168,100人	H30	104,331人	170,800人	ふるさと応援寄附金 寄附実績
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・「嬉野学(郷土学習)」による郷土愛の育成および心の教育の推進	・「嬉野学(郷土学習)」の実践を通して、児童生徒の郷土愛の育成および心の教育の推進に積極的に取り組んだ。	A	今後も地域コミュニティと連携し、故郷を愛する児童生徒の育成に取り組みたい。		※評価欄について A:計画的に事業実施・実施済 B:一部事業実施 C:事業検討・準備段階 D:未着手・事業休止・事業見直し必要
・地域・学校・家庭のサポートによるコミュニティ活動など地域活動への参加促進	「地域とともにある学校づくり研究部会」が中心になって、市内全体のコミュニティ・スクールとしての取組みの充実を図った。	A	地域コミュニティをはじめとする地域の様々な人や組織との結びつきをより強め、高校との連携も図りながら地域とともにある学校づくりの推進を図っていく。		
・郷土の歴史を次世代に受け継ぐための「嬉野市史」の編さん	市史編纂委員会・編集委員会を定期的に開催。専門部員(執筆者)を選任し、専門部会の開催及び各分野の調査活動を活発に実施し、編纂事業を推進した。 市民に対しての情報提供を呼びかけ資料収集を行った。編纂事業の成果報告として講演会を開催した。	A	予定:市史編纂委員会・編集委員会の開催。専門部会を定期的に行い、専門部員(執筆者)間の連携を図る。執筆に必要な調査活動を実施。 課題:調査成果の整理作業。情報共有を円滑にするための対策。		
・本市に関わりを持ってもらうためのシティプロモーション等の強化	連携協定企業であるMIZUNOや全日本女子野球連盟と共同してのプロモーションや、福岡、長崎でのTVCM放送、将棋の王位戦誘致など積極的なシティプロモーションを実施した。	A	これまで実施したプロモーションの検証分析を行い、さらに効果的なシティプロモーション実施につなげていく。		
・ふるさと応援寄附金事業および企業版ふるさと納税事業の推進	寄附窓口(サイト)拡充や企業版マッチング支援事業等に取り組んだ。前年度実績は過去最高の寄附受入額となった。(個人版:約33億円・企業版:3件)	A	さらなる魅力発信や返礼品開発・寄附窓口拡充など、寄附増大のための取組みを実施していく予定。		

基本目標② 嬉野市で働きたい”しごと”をつくる					
重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
新規雇用者数(5ヵ年累計)	160人	H26～30	30人	58人	担当課調べ
(1)企業誘致ビルを活用した新たな雇用の創出					
重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
企業誘致による新規雇用者数	140人	H26～30	12人	40人	担当課調べ
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・ 企業誘致ビルへの入居企業の獲得	企業誘致ビルへ1社の入居企業を獲得した。	A	引き続き入居企業の獲得に向けて取り組みを進めていく。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・ 県や各関係機関等と連携した企業誘致活動の強化	県と連携した企業誘致活動を行い、地方への事業展開を検討している企業に対し嬉野市への視察対応を行った。	A	嬉野市を視察された企業の誘致に繋げるべく引き続き県と連携を図っていく。		
・ 企業進出しやすい企業誘致支援制度の拡充	進出企業に対する既存の支援(優遇)制度の拡充は実施しなかった。	A	企業のニーズを把握しながら必要であれば支援制度の拡充も行っていく。		
・ 企業誘致にかかるプロモーションの充実	企業マッチングイベントに県と参加し、嬉野市のプロモーションを行った。	A	コロナ後を見据えながら、選ばれるまちを目指し、更にプロモーションを強化していく。		

(2) 地場産業を支える企業支援・起業支援の推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
市内企業支援およびマッチング支援による新規雇用者数	10人	H26～30	5人	0人	地域商業活性化事業(空き店舗改修)実績
市が支援した起業件数	10件	H26～30	6件	5件	地域商業活性化事業(空き店舗改修)実績 移住促進応援金実績
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・市内企業に対する奨励制度等の支援拡充	企業等誘致条例の奨励措置適用条件に該当する企業の事業所増設分に係る固定資産税免除を継続した。 また、期間延長された先端設備等導入支援による企業支援も引き続き実施し、3件の認定を行った。	A	中小企業等経営強化法に基づく先端設備等導入支援を行い、市内事業者の労働生産性向上に努める。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・移住や空き店舗活用等による起業支援の拡充	空き家バンクを通じて、塩田津に2店舗が増え、さらに市内にも1店舗開店予定である。また、移住促進応援金の起業支援を通じて5店舗の開業につながった。	A	店舗として利用しやすい空き物件が底をついてきている。また、起業支援の際の私物との線引きなど検討する必要がある。		
・関係機関と連携した創業スクール開催等の創業支援の拡充	嬉野市商工会と連携し、創業スクールを開催し、起業者等へ創業計画に対する支援を行った。なお、令和3年度はコロナ禍の状況を鑑み、オンラインでの講義とした。	A	引き続き、嬉野市商工会と連携し、創業スクールを開催することで、創業希望者等が円滑に事業経営を行えるよう支援する。		
・市内企業への若者や女性・障がい者の雇用促進・啓発	武雄市との連携で雇用創出・スタートアップ支援時事業(よかワーク)を実施し、子育て中の母親等への雇用の機会を提供した。	B	今後も引き続き事業を実施し、嬉野市民への働く場の提供、嬉野市内企業への働き手の確保を継続していく。		
・UJIターン等の移住希望者に対する域内企業情報や就業相談の充実	移住相談の際に、実際のハローワークの求人などの情報を提供している。また、県の仕事相談室と連携した就業相談をおこなっている。しかし、具体的に就職に繋がったケースは少ない。	B	誘致企業や地場企業など人手不足企業の求人について、確実に移住者へ届くように体制を整えていきたい。		
・市内企業へのインターンシップ受入れ体制の強化・支援	令和3年度実績なし。	C	高校や大学等との連携のなかで、市内企業の協力も得ながら受入れ体制を強化していく。		
・大学等のサテライト教室開催や連携する大学との共同研究の実施	新幹線駅周辺まちづくりについて佐賀大学と共同研究を実施した。	A	様々な分野やテーマにおける課題解決に向け、大学等との連携を図っていく。		

(3) 魅力ある地域商工業の創造

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
観光消費額	17,591百万円	H30 (暦年)	14,408百万円	7,769百万円	R3観光客動態調査
商店街の空き店舗率	12.9%以下	H30	17.8%	21.2%	空き店舗データ
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・金融機関等と連携した市内中小企業への事業資金融資等の支援	金融機関に融資資金を預託し、保証料を負担することで、市内中小企業が融資を受けやすくし、経営の安定及び高度化を図るための支援を行った。	A	引き続き事業を継続し、市内事業者が安定的に経営ができるよう支援し、市の産業振興を図る。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・県や商工団体等と連携した地元企業の経営支援および地域産業の担い手育成・支援	商工会と連携し、創業、経営、金融、税務等の個別支援や指導を行った。	A	市場の縮小や後継者不足に悩む市内事業者の課題を解決するべく伴走支援を実施していけるよう、引き続き商工会等と連携していく。		
・空き店舗活用など商店街等活性化施策の推進・支援	国、県等の補助金を活用し、商店街での開業を目指す者への支援を行う準備はしていたが、令和3年度中は、相談はあったものの、申請には至らなかった。	B	今後も嬉野・塩田各地区商店街において、商工会や商店街と連携し空き店舗活用による創業者への開業支援を行っていくことで、市内の空き店舗率の減少を図る。		
・魅力的な新商品・新サービスの開発や販路拡大のための支援	中小企業販路開拓事業や地場産品ものづくり支援事業により、市内中小企業事業者が行う新商品開発、販路開拓の支援を行った。	A	中小企業販路開拓事業、地場産品ものづくり支援事業は今後も継続し、市内事業者が自ら考え、新商品の開発や販路拡大を行うための支援を行い、市の商工業の発展を図る。		
・キャッシュレス決済導入の促進・支援	県補助を活用したキャッシュレス決済普及に努め、該当する事業所は普及が進んだ。また、ケーブルテレビ等を活用し、市民・利用者への普及・啓発にも努めた。	A	未導入の店舗等には、引き続き普及・啓発に努める。		
・消費拡大や販路開拓のための地域特産品やサービス等のプロモーション充実	サポート事業やチャレンジ事業を実施することで、各事業者がウィズコロナ、アフターコロナにおける自社商品等の消費拡大や販路拡大に向けた取組を行った。	A	コロナ禍における消費の落ち込みを回復させる支援策を状況に応じて行っていく。		
・賑わい創出企画など地域産業活性化に資する各種商工団体等の活動推進・支援	「嬉野温泉商店街ウエルカムキャンペーン」や「ギュッとフェス」など、各種団体が実施するイベントに関し、必要な補助や人的支援を行った。	A	市内産業に活性化をもたらす企画・イベント等に関し、今後も実施団体と協力しながら支援等を行っていく。		

(4)うれしの茶の生産振興と販路・需要開拓うれしの茶の販路・需要開拓

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
市内生産者の うれしの茶販売高	795,500千円	H30	794,000千円	709,918千円	西九州茶連取扱実績
海外販路開拓に向けた 商談成立件数	15件	H26～30	13件	26件	県茶商工業協同組合調査
海外販路開拓による うれしの茶出荷量	12.9トン	H30	8.1トン	1.2トン	県茶商工業協同組合調査
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・茶業生産基盤強化のための 取組み支援	茶園基盤整備推進事業により 小規模茶園の集団化や規模拡大、 豪雨災害からの復興支援を行い 茶生産性の向上を図った。	A	今後も茶業生産基盤強化のための 取り組みを行い、茶生産性及び 茶生産者所得の向上を図っていく。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・優良品種導入事業等による 高品質茶生産拡大の支援	うれしの茶優良品種導入事業により 県奨励品種への改植を行い 高品質茶生産の拡大を推進した。	A	良質で安心安全なうれしの茶 生産のため今後も優良品種導入による 高品質茶生産拡大支援への 取り組みを実施していく。		
・新商品開発等による高付加 価値化の促進	JAと連携し、うれしの茶需要拡大 対策事業での外部アドバイザー 委託事業によりうれしの茶の 粉末状エキスパウダーや佐賀 県産ブランドのいちごやみかん を使用したフレーバーティー の新商品開発を行った。	A	今後は開発した新商品の販売 を佐賀県内外や首都圏等で行 い、うれしの茶魅力PRや販路 拡大を図りうれしの茶の高付 加価値化を促進していく。		
・茶業関係機関と連携した海外 販路開拓の推進・支援	茶業関係者と連携し、輸出用茶 葉の栽培加工方法の確立や残 留農薬検査、海外バイヤーとの オンライン商談会等により海外 販路開拓の推進及び支援を行 った。	A	今後も茶業関係者と連携しな がら、輸出用茶葉の生産・加 工から販売までの支援を行い 海外販路開拓へ繋げる。		
・茶業関連団体各種協議会・ 団体等の活動推進・支援	茶業関連各種協議会及び団体 への補助金交付や各種活動の 支援を行い茶業振興策の推進 を図った。	A	今後も県やJA等と緊密に連 携しながら茶業関連各種協 議会及び団体等の活動を支 援していく。		
・うれしの茶交流館を活用した 「うれしの茶」発信および ブランド力の強化	うれしの茶交流館でのチャ オシルマルシェ等の年間通 してイベント実施やSNS 発信によりうれしの茶の 魅力を市内外へ発信する ことができた。	A	今後もチャオシルマルシェ 等の年間イベントや館内メ ニューの充実、SNS等によ りうれしの茶の発信を行 い、ブランド力の強化を 図って行く。		

【5】“うれしのブランド”づくりと稼ぐ農業の推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
“うれしのブランド”野菜の作付面積	100a	R2	80a	120a	JA、普及センターとの連絡調整会議
酒造用米(山田錦)の作付面積	22ha	H30	18ha	16ha	水田台帳
農村ビジネスサポート事業の取組み件数	10件/年	H30	6件/年	19件	関係機関との連絡調整
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・農業基盤整備や生産体制強化のための取組み推進・支援	ハウス団地を整備することで、農用地の面的集積、利用集積に加え、収益性の高い施設園芸作物が導入可能な生産基盤の整備及び安定的な農業経営の基盤が図られた。	A	収益性の高い施設園芸作物が導入可能な生産基盤の整備を行う予定		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・需要の高い農作物の作付拡大や品質向上など地域ブランド確立のための取組み推進・支援	酒造好適米として高品質な「山田錦」を生産する団体を、JAとの連携により支援を行った。省力化に努めるため直播法の取り組みを実施。	A	より良い品質の「山田錦」を生産するため、(一社)五町田地区酒米生産組合を支援していく。また、機械等を有効活用して作付面積拡大が図られるよう支援していく。		
・女性や高齢者等の就農促進および収益性向上につながる取組み推進・支援	お茶農家の端境期対策として時間当たりの高所得が望める「西洋野菜」の取り組み支援を行った。今年度末、約1haの面積で作付けを実施	A	西洋野菜のブランド化に努め、販売戦略の構築を図る		
・各関係機関等と連携した6次産業化に関する取組みの推進	令和3年度においては、具体的な取り組みに至らなかった	B	関係機関と連携しながら6次産業化への取り組みを推進していく。		
・各関係機関等と連携した都市農村交流に関する取組みの推進	令和3年度においては、具体的な取り組みに至らなかった	C	関係団体と連携しながら、都市農村交流事業の取り組みを推進していく		
・スマート農業に取り組む農業者等への研修や機器導入の支援	コロナ禍で研修会はできなかったが、機械導入(乗用田植え機)の導入支援を行った。	B	スマート農業の研修会・機械導入を図り、省力化への取り組みを推進する		

(6) 活力ある農業担い手の育成と農業後継者の確保

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
任意営農組合の法人数	12組合	H30	8組合	8組合	市営農組合連絡協議会名簿
トレーニングファームによる 市内での就農者数	10人(累計)	R2	4人(累計)	4人(累計)	TF運営協議会資料
青年就農者数	32人	H30	19人	29人	青年就農給付金受給者名簿
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・ 集落営農組織の育成および 経営体法人化の推進	平成29年度末までに市内8つの 農事組合法人が設立。今年度 は、重点地区を設定し法人化へ の支援を実施	A	法人化されている組織への支 援とともに、重点区域や中山間 地域において法人化等の組織 化に向けて、関係機関で支援し ていく。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実 施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事 業見直し必要
・ 認定農業者の育成と活動支 援	令和3年度においては、具体的 な取り組みに至らなかった	B	人・農地プランに位置づけられ る認定農業者の掘り起こしに勤 める		
・ 新規就農者や女性就農者の 育成と活動支援	新規就農者5年以内で組織する 「新農会」を立ち上げ、新規就農 者の支援活動を行った。	A	今後は、就農5年を過ぎた生産 者で組織する会を立ち上げ、営 農支援等を行う		
・ 農業次世代人材投資資金等 を活用した農業後継者確保の 促進	令和3年度末の給付金受給者 総数は、修了者12名、中止者4 名、現受給者10名の計26名と なった。	A	トマトのトレーニングファーム修 了生2名が新規に就農予定。今 後も、これまで同様、関係機関 と連携しながら候補者の掘り起 こしや広報を行っていく		

基本目標③ 嬉野市で結婚・出産・子育てしたい”まち”をつくる

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6)KPI	年度	値	値	把握方法
出生数(5カ年累計)	1,000人	H26～30	945人	166人	住民異動月計表
婚姻数(5カ年累計)	600組	H26～30	566組	127組	住民異動届集計

(1) 出会いをサポートする結婚支援

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6)KPI	年度	値	値	把握方法
出会いの場におけるカップル成立数	80組(累計)	H26～30	68組(累計)	5組(累計)	結婚支援イベント実績
結婚支援事業登録者数	150人	H30	101人	42人	結婚支援登録者名簿
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・ お見合いや婚活イベント開催等による男女の出会いの場の創出	相談員による婚活相談の実施、県主催のさが出会いサポートセンターを嬉野サテライト会場で毎月1回開催。、イベントを計画したが、コロナ禍で中止になった。	B	出会いの場の提供、婚活相談、セミナー等、結婚支援事業を継続していく。また、県・近隣市町とも連携し、互いにイベントを共催する。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・ 結婚支援相談員やサポーター等の育成	結婚支援相談員を配置し支援希望者の相談を実施した。相談員とサポーターとの情報交流会を開催した。	B	これまでの取組みを継続しながら、相談やお見合いの設定を拡大していく。		
・ コミュニケーション力の向上など独身者向けスキルアップ講座の開催	婚活イベントと組み合わせ、事前にセミナーを計画したが、コロナ禍で実施できなかった。	B	今後も、参加者にとって有意義な講座を継続したい。		
・ まちづくり団体等が実施する婚活イベントなどの取組み支援	コロナ禍により婚活イベントがほとんどなく支援もできなかった。	C	今後も、登録者へのイベント周知等を実施していく。		
・ 結婚機運の醸成および結婚支援情報に関する発信の強化	婚活セミナーや出逢いのイベントの開催について、登録者や結婚応援事業所等へチラシ配布した。	A	これまでの取組みを継続しつつ、今後はSNSを使った広報の検討、また独身者が相談員に相談しやすい環境の構築を行いたい。		
・ 他自治体や民間事業者等と連携した結婚支援事業の推進	近隣市町のイベントの情報共有、また民間事業者に委託して婚活イベント・婚活セミナーを計画企画したが、コロナ禍でイベントが中止となった。	B	民間業者との魅力あるイベントの計画、また県や他市町との共催イベントの開催を行いたい。		

(2) 妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
訪問指導・健康相談件数 (妊産婦、乳幼児、学童)	4,000人	H30	3,838人	2,254人	地域保健事業実績
電子母子手帳アプリ(ゆっつ ら子育てアプリ)ユーザー数	500人	R2	398人	416人	母子手帳アプリ管理ツール
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・ 広域連携による夜間・休日小 児救急医療の提供	市報や市HPにて広報し市民へ の周知に努めている。必要時確 認して受診に繋がることが出来 ている。	A	引き続き情報提供のため、市報 や市HPを活用し周知に努める。 また、受診の多い小児に焦点を 当てて母子モアプリ等を活用し た情報共有を行う。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実 施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事 業見直し必要
・ 妊娠・出産期から乳幼児・学 童期に至るまでの母子サポート 体制の充実	母子手帳交付時から保健セン ターの看護職が関わり、母子保 健に関する悩み等に乳幼児・学 童期まで切れ目なく継続して 関わっている。	A	幼児期には相談や健診の場面 でしか直接かわることができ ないため、平時の状況把握を保 育園、幼稚園、学校訪問等で必 要な情報を共有しサポートにつ なげる。		
・ 子育て世代包括支援センター を中心とした母子相談・支援の 充実	子育て世代包括支援センターに は保健師を配置し、他部署や関 係機関と連携し相談を受け、必 要な支援につなげている。	A	今後も子育てに関わる機関(母 子保推進協議会、助産師会、産 婦人科、小児科)と密に連絡を とり、支援が途切れないように する。		
・ 母子保健に関する情報発信 等の充実	母子モ(母子手帳アプリ)を活用 し、対象年齢に応じた情報発信 や緊急時のお知らせ、ホーム ページへのリンクにより情報発 信をしている。また、オンライン 相談ができる環境を整えてい る。	A	今後も母子手帳交付時に紹介 し、ユーザー数を増やしてい き、オンライン相談も活用してもら えるよう広報をする。		

(3) 安心して子どもを育てられる環境づくりの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
病児保育事業	50人	H30	40人	43人	利用者実績 (他市町利用者含む)
ファミリー・サポート・センター事業	500人	H30	239人	612人	利用者実績
日頃から家事(育児・介護を含む)に関わる男性の割合	85.0%以上	H28	68.7%	74.6%	男女共同参画に関する市民意識調査
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・「こどもセンター」を中心とした妊娠・出産・子育て・教育等の相談支援の充実	子育て家庭や妊産婦からの相談を受け付け、助言や情報提供を行うことで育児に対する不安や悩みを軽減し、相談者が必要とする支援に繋がるよう手助けができた。	A	子育てのことや家族のことなど安心して本音で話せる会話の場を設け、子育ての大変さの共有や育児疲れの軽減を図る。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・ 育児不安・孤立化の解消や子育て相談・交流を促進する地域子育て支援センターの充実	コロナ禍でも親子の居場所、親同士の交流の場、子育てに関する相談場所として子育て支援センターの開所に努め、交流の促進や育児不安・孤独感の緩和を図った。	A	子育て支援センターの利用促進のため、市ホームページのリニューアルや10か月児訪問でのイベント周知に努める。		
・ 保育サービスの充実および乳幼児や障がい児の保育の場の確保	放課後児童クラブを五町田小学校に増設し、待機児童の解消を図った。また、令和2年度に小規模保育園が1園開設したことにより、3歳未満児の受入を増やすことができた。	A	医療的ケア児が希望通りに保育施設に入所できるよう受入体制の整備に取り組む。		
・ ファミリー・サポート・センターの体制強化およびサービス利用の促進	子育ての援助を行う「まかせて会員」にスキルアップ講習会や交流会を実施し資質の向上を図った。また、利用料金の助成や新生児の家庭に配布している無料利用券の有効期限を1年間から2年間に延長することで利用促進を図った。	A	無料利用券の利用促進及び「まかせて会員」の登録者を増やしていくため、事業の周知を強化する。		
・ ひとり親家庭への医療費助成や応援給付等の子育て支援および自立に向けた就業支援	ひとり親家庭医療費助成及びひとり親子育て世帯応援給付金事業により、各世帯の経済的負担の軽減につながった。また、就業支援相談により自立支援事業の利用に繋がった。	A	ひとり親家庭医療費助成事業については、現在の償還払いから現物給付化への移行を検討していく。		
・「女性・子ども家庭支援センター」を中心とした児童虐待・DV等の家庭総合支援の充実	令和2年度から女性・子ども家庭支援センターに子ども家庭総合支援拠点を設置し、保健師、子ども家庭支援員を中心に児童虐待を含む養護相談や養育相談等に応じ、適切な助言・指導を行った。また、関係機関と連携を図りながら継続的な支援を行った。	A	今後も学校や保育所等を訪問し、児童虐待や支援が必要な子どもの早期発見・早期対応に取り組んでいく。また、子ども自身が相談できるよう相談先の周知に努める。		

具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)			
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)	
・早期支援コーディネーターによる幼保小連携および放課後児童クラブ等による子育て支援	「切れ目ない支援体制整備充実事業」は3か年事業だったため、令和元年度で終了。令和2年度からは学校教育課で新事業実施。 配慮が必要な子どもなど就学移行期に情報共有の引継ぎが円滑にできた。	D	円滑に小学校入学ができるように教育部局と連携して幼保小連携を図っていく。	※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・ワークライフバランスの充実および男女共同参画の意識向上のための取組み推進	男女共同参画推進団体と連携して、男女共同参画の啓発映写会を開催した。	A	今後も市内の男女共同参画推進団体との連携で講演会・映写会を実施し、男女共同参画社会の推進を図る。市報、市HP、行政放送等を通じて、地域での啓発活動やイベント情報等を発信。	
・女性活躍の場を拡大するための取組み推進	地域コミュニティや事業所、公共施設へチラシ配布で周知した。	B	今後も国・県からの情報を情報発信していく。	

(4) 特色ある教育の推進と確かな学力の育成

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
全国学力・学習状況調査 対象学年／実施教科 ・小6／国語、算数 ・中3／国語、数学 ※年度によって英語、理科も実施	小中学校とも調査対象の全教科で市平均点が全国平均以上	R1	小6:全教科で市平均が全国平均以上 中3:全教科で市平均が全国平均以下(県平均以上)	小6:国語は全国平均以上算数は全国平均以下 中3:全教科全国平均以下	全国学力・学習状況調査結果
県小・中学校学習状況調査 対象学年／実施教科 ・小4・5・6／国語、算数、理科、社会 ・中1・2／国語、数学、理科、社会、英語	小中学校とも調査対象の全教科で市平均点が県平均以上	H30	小6:理科・中2:国語以外の教科において、市平均が県平均以上	小6:算数 中1:国語、社会 中2:理科以外、県平均以上	県小・中学校学習状況調査
小中学校のICT環境整備	無線LAN(普通教室)および可動PC(1人1台)の整備率:100%	H30	—	無線LAN(普通教室)および可動PC(1人1台)の整備100%完了	実績 (担当課調べ)
特別支援教育支援員の配置	必要とする全ての学校へ配置	H30	15人	15人	実績 (担当課調べ)
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・『嬉野市副読本「生きる力」の教科書』の活用による自己解決力・自己防衛力等の育成および生きる力の伸長	・令和3年度より『嬉野市副読本「生きる力」の教科書』三訂版を活用し、年間計画に基づいて指導を行った。自己解決力・自己防衛力等の育成および生きる力の伸長につながっていると考えている。	A	・今後も指導時間を確保し、継続してきちんと取り組んでいく。		※評価欄について A:計画的に事業実施・実施済 B:一部事業実施 C:事業検討・準備段階 D:未着手・事業休止・事業見直し必要
・小学校の「子ども学校塾」による学習習慣の定着および中学校の「放課後等補充学習支援事業」による基礎学力の向上	・「放課後等補充学習支援事業」による基礎学力の向上、各学校の学力向上コーディネータを中心とした授業改善を行った。全国調査、県調査ともに、全学年全教科で全国や県の平均を上回ることではできなかった。	B	・今後も、「放課後等補充学習支援事業」による基礎学力の向上、各学校の学力向上コーディネータを中心とした授業改善に取り組んでいく。		
・国語辞典の支給・活用による語彙力等の育成	・国語辞典の活用により、語彙力が育成されている。全国学力・学習状況調査において、語彙力に関する項目の市の平均は小6で全国の平均を上回った。県調査では市の平均は、小4～中2まで全学年で県の平均を上回った。	A	・今後も、国語辞典の支給・活用による語彙力等の育成を目指す。		
・より良い小中一貫教育の在り方に関する研究の推進	「ろく・さんプラン部会」を中心に、小中連携した取組が行われた。特に嬉野中学校区では、小中連携学力向上指定事業の2年目で各学校で授業研究会を行い、9年間を見通した授業改善について研修を深めることができた。	A	今後も「ろく・さんプラン部会」を中心に、各中学校区の特徴を生かしながら、研究を推進する。		
・「校長先生の知恵袋事業」による校長のマネジメント力強化	事業計画に沿って事業が遂行された。各学校の校長のマネジメント力の強化につながった。	A	事業計画について、プレゼンテーションによる審査を行って予算配分を行うことで校長のマネジメント力の、より一層の強化を目指す。		

具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)			
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)	
・早期からの教育相談等による就学支援の充実	・年長児保護者を対象とした就学相談(年2回)、年中児保護者を対象とした子育て相談(年1回)、園への巡回訪問等を行い、保護者や学校、関係機関と連携した就学支援を行うことができた。 (R3年度の相談者数:就学相談73、子育て相談16)	A	今後も、市長部局の関係課や、外部の関係機関と連携しながら早期からの教育相談等による就学支援の充実を図る。	※評価欄について A:計画的に事業実施・実施済 B:一部事業実施 C:事業検討・準備段階 D:未着手・事業休止・事業見直し必要
・学校運営協議会を核とした地域コミュニティ組織との協働による学校づくりの推進	・地域コミュニティとの協働により、子ども達の体験活動が充実できた。 ・学校運営協議会では、各学校の学校運営方針に沿って意見交換や教育活動の評価がなされた。	A	・今後も、学校運営協議会を核とした地域コミュニティ組織との協働による学校づくりの推進を目指す。	
・タブレット端末や既存のICT機器を活用した授業の充実	・各学校で意欲的に授業に取り入れ、授業改善が図られている。タブレットに不得手な教員も校内での研修を通して、利用が進んでいる。	A	・OJTを推進し、有効な活用方法の周知を行う。 ・機器トラブルが発生した時の対応が難しい。情報教育指導員の活用をさらに図りたい。	

基本目標④ 嬉野市で安心して暮らしたい“地域”をつくる

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6)KPI	年度	値	値	把握方法
地域コミュニティ事業への住民参加数	22,500人	H30	21,025人	13,446人	地域コミュニティ事業実績報告
65歳以上人口に占める要支援・要介護者の割合	17.00%未満	H30	17.32%	17.57%	杵藤地区広域圏介護保険事務所統計資料より

(1)コミュニティ活動等の推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6)KPI	年度	値	値	把握方法
地域コミュニティへの市事業委託数	14事業	H30	7事業	9事業	実績(担当課調べ)
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・全地区地域コミュニティによる自主的・積極的な各種コミュニティ活動の推進・支援	地域におけるまちづくりを推進することができた。また、地域コミュニティが策定した地域計画に基づく地域コミュニティ活動の各種支援を行った。	A	今後もコミュニティ活動に対して交付金等の支援を行っていく。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・地域コミュニティの活動状況等に関する情報発信の充実	各地域コミュニティの活動を市報、市HP、行政放送を通じて情報発信した。また、各地域コミュニティでも地区内で定期的に活動チラシを全戸配布した。	A	今後も各地域コミュニティの様々な取組みなど情報発信強化を図っていく。		
・各地区地域コミュニティの自主防災活動の推進・支援	各地域コミュニティで避難訓練や消火訓練、非常食炊き出し訓練、救急救命講習会など自主防災訓練を実施した。	B	行政区単位の避難訓練を拡大していく。		
・NPOの設立・運営や各種CSOの活動支援および交流や情報提供の促進	NPOの設立・運営に関する相談、問い合わせに対応するとともに、県からの情報を各団体にに向けて提供した。	A	今後も県等からの情報を積極的に提供していく。また、内閣府で検討されている特定非営利活動促進に係る手続きのオンライン化に対応する。		
・地域住民等による主体的な景観づくり活動の推進・支援	多くのコミュニティで美化活動(花いっぱい運動)や清掃活動(草払い、溝掃除)、不法投棄禁止看板設置に取り組んだ。	B	今後も継続し、さらに拡大するよう推進していく。		
・地域コミュニティセンターの整備・充実	地域コミュニティセンターの整備については、徐々に進めていて、五町田地区コミュニティは移転をし整備された。	A	コミュニティセンター内の水害対策を検討していく。		

(2) 安全・安心なまちづくりの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6) KPI	年度	値	値	把握方法
消防団員数 (うち女性消防団員数)	1,050人 (40人)	H30	1,035人 (41人)	1,009人 (48人)	消防団員名簿
防災メール登録者数	1,500人	H30	703人	1,177人	防災メール登録名簿
市内人身交通事故発生件数	80以下	H30	121件	68件	実績(担当課調べ)
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・消防団のPR・理解の促進および消防団員優遇措置等による消防団員確保の推進	横断幕・のぼり旗に「火の用心・消防団員募集」を掲げて市街地広報パレードを実施した。	A	今後とも様々な広報活動によるPRと消防団員確保に繋がる取組を実施していく。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・女性消防団等による防災広報活動の推進	毎月1回と火災予防週間の市街地広報活動や福祉施設へ訪問し劇等を行う防火教室への支援を行った。	A	これまでの取組みを継続して行っていく。		
・防災拠点整備の拡充および市民への防災・避難に関する情報発信の強化	避難所として利用する各施設に避難所運営資材の配備を進めるとともに、各地区や各コミュニティ、学校で防災講話を行い情報発信及び防災意識の向上に取り組んできた。	A	これまでの取組みを継続して行っていくとともに、各コミュニティ及び建設予定の道の駅等に備蓄資材の配備ができないか検討していく。		
・建物等の地震に対する安全性向上のための耐震改修の促進	チラシ回覧や戸別訪問により耐震改修の周知活動を行った。	B	これまでの取組みを継続して行っていく。		
・警察・交通安全協会・交通安全指導員等と連携した交通安全運動の推進	例年、各季ごとに4回の交通安全運動を実施。特に、春と秋は関係機関と合同で街頭キャンペーンを行い市民に対して交通安全啓発活動を図っている。	A	今後も引き続き交通安全啓発活動に取り組む方針である。		
・防犯灯・防犯カメラ等の計画的な増設	平成26年度から実施してきた防犯灯のLDE化は、令和3年度までに市内2533基の設置を完了した。	A	令和4年度は、子供を見守る防犯カメラを4箇所設置する予定である。		

具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)			
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)	
・空家等の把握や空家管理の啓発および特定空家等の指導・措置の実施	令和3年度、空き家の相談24件を受理し、適正管理をするように指導を行った。その他空き家の繁樹木等の相談を多数受理し、関係機関及び地区区長などと連携を図り対応した。	A	令和4年度、5年ぶりに嬉野市空家等実態調査を実施する予定である。	※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要

(3)健康長寿のまちづくりの推進					
重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6)KPI	年度	値	値	把握方法
特定健康診査受診率	60%以上	H30	44.7%	46.7%	特定健診システム
特定保健指導受診率	60%以上	H30	61.2%	61.4%	特定健診システム
がん検診(胃がん)	13.3%以上	H30	9.1%	9.1%	がん検診受診実績 (データヘルス計画)
がん検診(子宮がん)	25.3%以上	H30	20.1%	17.2%	がん検診受診実績 (データヘルス計画)
がん検診(乳がん)	30.3%以上	H30	26.3%	22.2%	がん検診受診実績 (データヘルス計画)
がん検診(大腸がん)	20.4%以上	H30	12.7%	11.2%	がん検診受診実績 (データヘルス計画)
がん検診(肺がん)	18.2%以上	H30	11.5%	10.2%	がん検診受診実績 (データヘルス計画)
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・「嬉野市健康総合計画・食育推進計画」の推進	関係機関と連携しながら、健康づくりの7分野をライフステージごとに分け、それぞれの実践目標や実施計画に基づき事業を推進している。	A	R4年度は第3次計画の最終年度であるため、これまでの取り組みに対する評価を行い、第4次計画の策定に向け課題を明確にする。 引き続き事業を推進し、計画の最終目標である「健康長寿のまちづくり」を目指し取り組みを行う。		※評価欄について A: 計画的に事業実施・実施済 B: 一部事業実施 C: 事業検討・準備段階 D: 未着手・事業休止・事業見直し必要
・ 特定健康診査・特定保健指導実施率向上の推進	市報・チラシ配布等の広報、家庭訪問・電話連絡による受診勧奨、国民健康保険加入時の案内など各種方法により受診率向上に努めた。R3年度コロナワクチン接種時期と重なったことで受診率が低下した。	A	受診率向上については、『前年度初受診者』、『前年度受診離脱者』の次年度の受診率向上への取り組みを行う。特定保健指導については、地区担当制による家庭訪問で実施率向上に努める。		
・ がん検診受診率向上の推進	受診促進と普及啓発のため、市報やホームページ等を活用して取り組んだ。しかし、コロナ禍の影響もあり、受診率の低下は否めない。	A	引き続き、受診促進と普及啓発のため、市報、班回覧、HP、行政放送、SNSを利用し受診率向上を図っていく。働く世代の受診率向上のため、受診しやすい体制を整えていく。		
・ 健康長寿への自己管理意識の普及啓発	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業において、老人クラブでフレイル予防に関する講話や健康チェックを実施しているが、コロナ禍の影響もあり、開催自体を自粛されているところが多く、開催数はまだ少ない状況である。	A	引き続き関係各課と連携し、より多くの老人クラブでの開催を目標に事業を進めていきたい。また、市報等の活用により普及活動を実施していく。		
・ 「市健康マイレージ」・「県健康アプリ: SAGATOCO(サガトコ)」等の利用促進	検(健)診会場や各種健康教室での周知、地域コミュニティとの連携等により健康マイレージの普及啓発に努めた。SAGATOCOアプリの活用を健康マイレージのチャレンジ項目の一つとし、利用を推進している。	A	今後も市民一人ひとりが健康に関心を持つきっかけづくりとなるよう事業を継続する。		

具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)			
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)	
・国・県・医療機関等と連携した感染症等対策の推進	コロナ禍となり、新型コロナウイルス感染症対策とコロナ予防ワクチン接種による予防対策国・県の指示に基づき医療機関の協力を得て実施してきた。また、定期予防接種については、出生後訪問や相談等で必要性を説明し接種勧奨している。	A	引き続き、感染症の動向を見ながら、コロナに限らず感染症の予防と感染拡大予防を医療機関と連携して実施する。	※評価欄について A : 計画的に事業実施・実施済 B : 一部事業実施 C : 事業検討・準備段階 D : 未着手・事業休止・事業見直し必要

(4)誰もが元気で住み続けられるまちづくりの推進					
重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6)KPI	年度	値	値	把握方法
「高齢者居場所づくり」による設置数	20箇所	H30	10箇所	15箇所	担当課調べ
認知症サポーター数	2,300人	H30	1,592人	2,101人	担当課調べ
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・介護予防教室(運動教室・健康教室)による介護予防および高齢者運動の促進	要介護認定の有無に関係なく、年間を通して参加出来るように計画・実施した。プールは開催事業所を1カ所増やし実施した。	A	年間を通じた事業実施を継続し、要介護状態の予防や運動機能・認知機能の維持を目指していく。		※評価欄について A:計画的に事業実施・実施済 B:一部事業実施 C:事業検討・準備段階 D:未着手・事業休止・事業見直し必要
・各地域における高齢者居場所づくりの推進・支援	老人会やコミュニティ、サロンへ出向き、通いの場における百歳体操の実施等、居場所づくりの推進・支援を行った。	A	引き続き、居場所づくりの支援を行っていく。通いの場の継続のための支援を行っていく。		
・様々な層を対象とした認知症サポーター養成講座の実施	引き続き学生への認知症サポーター養成講座を実施。民生委員等を対象に企画したが、コロナ感染者数増加のためとりやめになることもあった。	B	少人数での実施、ICTを活用するなどして開催する検討が必要。		
・生涯にわたる学ぶ気持ちの育成および生きがいづくりの推進・支援	かがやき大学を実施し、健康で毎日の生きがいや仲間づくり、社会参加の意識向上を図った。	A	引き続き事業を行っていくとともに、内容を充実させるため、講師やテーマの検証を行いたい。		
・地域コミュニティ事業等による多世代交流の推進(昔遊び・しめ縄づくり等)	地域コミュニティ事業の中でしめ縄づくりや囲碁等を行い世代間の交流を図った。また、コミュニティスクール事業で小学校へ高齢者が昔遊び等を伝授しふれあいを図った。	A	今後も同様な事業を継続していく。		

(5) 地域における身近な移動手段の確保

重要業績評価指標	目標	基準値		令和3年度末実績	
	R6年度(R2～6)KPI	年度	値	値	把握方法
市内公共交通路線数	11路線	H30	11路線	11路線	担当課調べ
具体的な施策	令和3年度の進捗状況(令和4年3月末時点)				
	これまでの取組(進捗、成果等)	評価	今後の取組(予定・課題等)		
・ 既存交通路線の維持・確保	既存交通路線の維持及び確保ができた。	A	嬉野市地域公共交通計画に基づき、公共交通ネットワークの再構築を図っていく。		
・ 福祉バスを含めた市内交通システムの開発・検討	吉田地区において福祉バスを運行中である。住民の要望に応じて区域を広めて対応している。(下吉田地区、兎鹿野地区) ※福祉バスについては福祉課	A	嬉野市地域公共交通計画に基づき、今後の交通システムについて検討を行っていく。		
・ 「地域公共交通計画」に基づいた公共交通ネットワークの見直し	嬉野市地域公共交通計画を策定した。	A	嬉野市地域公共交通計画に基づき、公共交通ネットワークの再構築を図っていく。		